

ウイルス肝炎のお話

「治療が劇的に進歩しました」

今回は日本肝臓学会・消化器病学会専門医の
道義浩二郎医師に「ウイルス肝炎」について伺いました。



▲道義浩二郎 医師

今回はウイルス肝炎のお話です。皆様、B型肝炎やC型肝炎という病名をお聞きになったことがあると思います。肝炎をおこすウイルスは数種類ありますが、肝硬変、肝がんという怖い病気をおこすのはB型肝炎ウイルスとC型肝炎ウイルスの2種類です。日本ではB型肝炎、C型肝炎と

もに人口の1%程度、約100万人の方が持続感染しています。これらの肝炎ウイルスは新型コロナウイルスやインフルエンザと異なり呼吸器から感染するウイルスではなく、血液や体液を介して感染します。近年は新たな感染者は減りましたが、タトウ（刺青）を入れた際に気づかないまま感染している人が増えており注意が必要です。

要で、発熱など副作用頻度が高く治療効果も不十分でした。近年、B型肝炎、C型肝炎とも良く効く飲み薬の治療薬が開発され、副作用もほとんどないため治療がごく楽になりました。特にC型肝炎に對しては2〜3か月間1日1回薬を服用するだけでほぼ100%の患者さんでウイルスが完全に消える素晴らしい治療薬ができました。この治療が広く行われるようになりC型肝炎の肝硬変、肝がんは急速に減ってきています。

この治療には年齢制限はなく、80歳を超える方も治療可能です。ウイルス肝炎の方で、治療が怖い、あるいは医療費が心配で治療されていない方が多数おられますが、薬に治療でき、また医療費助成制度があり少ない負担で治療ができます。ウイルス肝炎は肝機能検査値が正常でも肝がんを発症することがありますので、肝炎と言われたことのある方は、ぜひかかりつけ医や消化器内科の医師にご相談ください。

社会福祉法人 恩賜財団 済生会今治第二病院
今治市北日吉町1丁目7番43号

<https://www.imabari.saiseikai.or.jp/site/saiseikai-imabaridaiz/>



☎0898-23-0100